

# 小児の成長障害

都留市立病院小児科

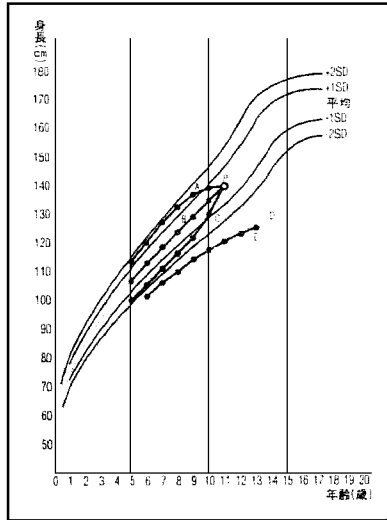
佐野友昭

新学期が始まり、学校では身体検査も終わったところですが、子どもたちの成長が順調かどうか気になるお母さんも多いのではないのでしょうか。ここ数年、子どもの身長伸びは著しいのですが、一方で平均よりかなり低い子どもも目立っています。「背の低いのは生まれつき」「親が低いので仕方がない」「いずれ伸びるのでは」などとあきらめている親ごさんが多いようですが、低身長のなかには成長ホルモンの分泌が不十分なために起こる成長ホルモン分泌不全性低身長による場合があり、注意が必要です。

## 正常かどうかの判断

年間何センチ伸びているかを成長曲線にして、伸び方を見ます。一点だけを見るのではなく、正常な成長曲線と平行に伸びているか

図1 成長曲線



(平成2年度厚生省乳幼児身体発育調査結果および平成2年度文部省学校保健統計調査報告書の資料より作製)

とは、早期に発見して適切な治療を行うということになります。十二、十三歳で見つけるのと七、八歳で見つけるのでは、治療を始める年

齢が五、六年も違ってきますので、治療の効果にも差がでます。病院での検査  
まず、成長曲線を作製することが出発点となります。併せて妊娠・分娩時の状況、精神・運動発達の状態、家族の身長・体重、思春期発来時期、成長障害の有無を調べます。必要なら手のレントゲン撮って骨の年齢を見たり、成長ホルモンや甲状腺ホルモンなどの検査をすることもあります。

成長ホルモン分泌刺激検査は、成長ホルモン分泌を刺激する薬を使って、薬の投与前と投与後三十分毎に五、六回採血して、血液中の成長ホルモンの濃度が高くなっているかどうかを調べます。また、この検査が正常でも、日常的に成長ホルモンの分泌がわるいため、身長が伸びない成長ホルモン神経分泌機能障害によるものもあります。その場合は夜間睡眠後二十分毎に三時間採血して、成長ホルモンを調べる検査を行います。一度診察を受けて治療は必要ないと言われても、伸び方が気になるようなら、あきらめずに年に一、二回診察を受け、必要なら検査も繰り返すことです。別の検査で見つかることもありますし、診断基準も年々変わっています。

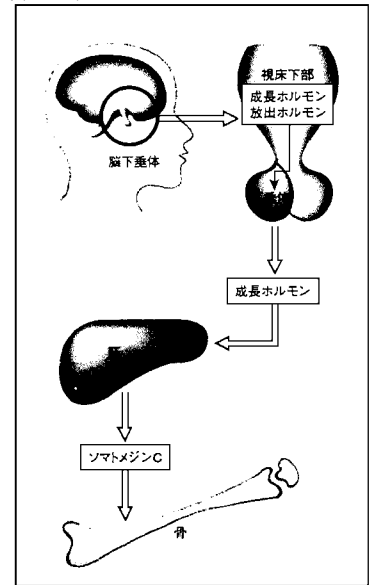
治療はどのように行われるか？  
治療には、財団法人成長科学協会の成長ホルモン治療適応判定書が必要で、承認を受け小児慢性特定疾患と認定されると、二十歳までは自己負担なしで治療ができます。成長ホルモンは自宅で両親または年長ならば本人が、お尻や腹などに皮下注射しますが、とても安全です。

## 成長ホルモン

脳下垂体から分泌される成長ホルモンは、肝臓に働いてソマトメジンCという骨の成長に不可欠な物質をつくらせる働きがあり、成長に欠けてはならない重要なホルモンです。(図2)

分泌に影響を与えています。身長伸び方の個人差  
いわゆる「おくて」と「わせい」があるほか、病気による場合もあります。「おくて」は思春期が遅くなることで、男児に多く、お父さんがおくてであった場合に多くみられます。一般的に思春期がくると身長も伸びて、ほとんどの場合、最終的な成人身長は正常幅の範囲内に入ります。しかし、「おくて」でも極端に低い場合には専門医に相談する必要があります。

図2 成長ホルモンと成長のメカニズム



分泌に影響を与えています。身長伸び方の個人差  
いわゆる「おくて」と「わせい」があるほか、病気による場合もあります。「おくて」は思春期が遅くなることで、男児に多く、お父さんがおくてであった場合に多くみられます。一般的に思春期がくると身長も伸びて、ほとんどの場合、最終的な成人身長は正常幅の範囲内に入ります。しかし、「おくて」でも極端に低い場合には専門医に相談する必要があります。